呼子と口笛

石川啄木

青空文庫

はてしなき議論の後

一九一・六・一五・T O K Y O

われらの且かつ読み、且つ議論を闘たたかはすこと、

しかしてわれらの眼の輝けること、

五十年前の露ロシヤ西亞の青年に劣らず。

われらは何を為なすべきかを議論す。

されど、誰一人、握りしめたる拳こぶしに卓をたたきて、

、 V N A R O D I . と叫いび出いづるものなし。

われらはわれらの求むるものの何なるかを知る、

また、民衆の求むるものの何なるかを知る、

しかして、我等の何を為すべきかを知る。

実に五十年前の露西亞の青年よりも多く知れり。

されど、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、

、 V NARODI、と叫び出づるものなし。

此処にあつまれるものは皆青年なり、

常に世に新らしきものを作り出いだす青年なり。

われらは老人の早く死に、しかしてわれらの遂に勝つべきを知る。

見よ、われらの眼の輝けるを、またその議論の激しきを。

されど、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、

、 V NARODI, と叫び出づるものなし。

ああ、らっふそく 蠟燭はすでに三度も取り代へられ、

のみもの 飲料の茶碗には小さき羽虫の死骸浮び、

若き婦人の熱心に変りはなけれど、

その眼には、はてしなき議論の後の疲れあり。

されど、なほ、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、

、 V NARODI, と叫び出づるものなし。

ココアのひと匙

一九二一・六・一五・T O K Y O

われは知る、テロリストの

かなしき心を――

言葉とおこなひとを分ちがたき

ただひとつの心を、

奪はれたる言葉のかはりに

おこなひをもて語らむとする心を、

われとわがからだを敵に擲なげつくる心を――

しかして、そは真面目まじめにして熱心なる人の常に有もつかなしみなり。

はてしなき議論の後の
冷めたるココアのひと匙さじを啜すすりて、
そのうすにがき舌したざは触りに、
われは知る、テロリストの
かなしき、かなしき心を。

激論

一九二一・六・一六・T O K Y O

われはかの夜の激論を忘るること能はず、
新しき社会に於ける‘権力’の処置に就きて、
はしなくも、同志の一人なる若き経済学者Nと
われとの間に惹き起されたる激論を、
かの五時間に亘れる激論を。

‘君の言ふ所は徹頭徹尾煽動家の言なり。’
かれは遂にかく言ひ放ちき。

その声はさながら咆ゆるごとくなりき。

若しその間に卓子のなかりせば、

かれの手は恐らくわが頭を撃ちたるならむ。

われはその浅黒き、大いなる顔の
男らしき怒りに漲みなぎれるを見たり。

五月の夜はすでに一時なりき。

或る一人の立ちて窓をあけたるとき、

Nとわれとの間なる蠟燭の火は幾度か揺れたり。

病みあがりの、しかして快く熱したるわが頬に、
雨をふくめる夜風の爽さわやかなりしかな。

さてわれは、また、かの夜の、

われらの会合に常にただ一人の婦人なる

Kのしなやかなる手の指環を忘るること能はず。

ほつれ毛をかき上ぐるとき、

また、蠟燭の心を截しんるとき、

そは幾度かわが眼の前に光りたり。

しかして、そは実にNの贈れる約婚のしるしなりき。

されど、かの夜のわれらの議論に於いては、

かの女は初めぢよよりわが味方なりき。

書齋の午後

一九一一・六・一五・T O K Y O

われはこの国の女を好まず。

読みさしの舶来の本の

手ざはりあらし紙の上に、

あやまちて零こぼしたる葡萄酒ぶだうしゆの

なかなかしに浸みてゆかぬかなしみ。

われはこの国の女を好まず。

墓碑銘

一九一一・六・一六・T O K Y O

われは常にかれを尊敬せりき、

しかして今も猶^{なほ}尊敬す——

かの郊外の墓地の栗^{くり}の木の下に

かれを葬りて、すでにふた月を経^へたれど。

実に、われらの会合の席に彼を見ずなりてより、

すでにふた月は過ぎ去りたり。

かれは議論家にてはなかりしかど、

なくてかなはぬ一人なりしが。

或る時、彼の語りけるは、

‘同志よ、われの無言をとがむることなかれ。

われは議論すること能はず、

されど、我には何時にても起つことを得る準備あり。

‘かれの眼は常に論者の怯懦を叱責す。

同志の一人はかくかれを評しき。

然り、われもまた度度しかく感じたりき。

しかして、今や再びその眼より正義の叱責をうくることなし。

かれは労働者——一個の機械職工なりき。

かれは常に熱心に、且つ快活に働き、

暇あれば同志と語り、またよく読書したり。

かれは煙草も酒も用ゐざりき。

かれの真摯しんしにして不屈、且つ思慮深き性格は、

かのジュラの山地のバクウニンが友を忍しのばしめたり。

かれは烈しき熱に冒されて病の床に横よこたはりつつ、

なほよく死にいたるまでうはごと譎語を口にせざりき。

‘今日は五月一日なり、われらの日なり。これかれのわれに遺したる最後の言葉なり。その日の朝、われはかれの病を見舞ひ、その日の夕ゆふべ、かれは遂に永き眠りに入れり。

ああ、かの広き額と、鉄槌てつづみのごとき腕かひなと、しかして、また、かの生を恐れざりしごとく死を恐れざりし、常に直視する眼と、眼つぶれば今も猶わが前にあり。

彼の遺骸は、一個の唯物論者として、

かの栗の木の下に葬られたり。

われら同志の撰えらびたる墓碑銘は左の如し、

‘われには何時にても起つことを得る準備あり。’

古びたる鞆をあけて

一九一・六・一六・T O K Y O

わが友は、古びたる鞆かばんをあけて、

ほの暗き蠟燭らふそくの火影ほかけの散らばへる床に、

いろいろの本を取り出いだしたり。

そは皆この国にて禁じられたるものなりき。

やがて、わが友は一葉の写真を探しあてて、

‘これなり’とわが手に置くや、

静かにまた窓に凭りて口笛を吹き出だしたり。

そは美しくしにもあらぬ若き女の写真なりき。

家

一九一一・六・二五・T O K Y O

今朝も、ふと、目のさめしとき、

わが家と呼ぶべき家の欲しくなりて、

顔洗ふ間もそのことをそこはかたなく思ひしが、

つとめ先より一日の仕事を了^をへて帰り来て、

夕餉^{ゆふげ}の後の茶を啜^{すす}り、煙草をのめば、

むらさきの煙の味のなつかしさ、

はかなくもまたそのことのひよつと心に浮び来る――

はかなくもまたかなしくも。

場所は、鉄道に遠からぬ、

心おきなき故郷の村のはづれに選びてむ。

西洋風の木造のさっぱりとしたひと構へ、
高からずとも、さてはまた何の飾りのなくとも、
広き階段とバルコンと明るき書斎……
げにさなり、すわり心地のよき椅子いすも。

この幾年に幾度も思ひしはこの家のこと、

思ひし毎ごとに少しづつ変へし間取りまどのさまなどを

心のうちに描きつつ、

ラムプの笠かさの真白きにそれとなく眼をあつむれば、

その家に住むたのしさのまざまざ見ゆる心地して、

泣く児こに添乳そへちする妻のひと間の隅のあちら向き、

それを幸ひと口もとにはかなき笑みゑものぼり来る。

さて、その庭は広くして、草の繁しげるにまかせてむ。

夏ともなれば、夏の雨、おのがじしなる草の葉に
音立てて降るころよき。

またその隅にひともとの大樹を植ゑて、

白塗の木の腰掛を根に置かむ――

雨降らぬ日は其処そこに出て、

かの煙濃く、かをりよき埃エジプト及煙草ふかしつつ、

四五日おきに送り来る丸善よりの新刊の

本の頁を切りかけて、

食事の知らせあるまでをうつらうつらと過ごすべく、
また、ことごとにつぶらなる眼を見ひらきて聞きほるる
村の子供を集めては、いろいろの話聞かすべく……

はかなくも、またかなしくも、

いつとしもなく若き日にわかれ来りて、

月月のくらしのことに疲れゆく、

都市居住者のいそがしき心に一度浮びては、

はかなくも、またかなしくも、

なつかしくして、何時^{いつ}までも棄^すつるに惜しきこの思ひ、

そのかずかずの満たされぬ望みと共に、

はじめより空むなしきことと知りながら、

なほ、若き日に人知れず恋せしときの眼付して、

妻にも告げず、真白なるラムプの笠を見つめつつ、

ひとりひそかに、熱心に、心のうちに思ひつづくる。

飛行機

一九一一・六・二七・T O K Y O

見よ、今日も、かの蒼あをぞら空に

飛行機の高く飛べるを。

給仕づとめの少年が

たまに非番の日曜日、

肺病やみの母親とたった二人の家にて、

ひとりせつせとリイダアの独学をする眼の疲れ……

見よ、今日も、かの蒼空に

飛行機の高く飛べるを。

青空文庫情報

底本：「日本の文学15」中央公論社

1967（昭和42）年6月5日初版発行

1973（昭和48）年7月30日10版発行

※旧仮名の拗音、促音を小書きする底本本文の扱いを、ルビにも適用しました。

入力：蔣龍

校正：川山隆

2008年5月17日作成

2012年3月8日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

呼子と口笛

石川啄木

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>